

# ゆめ通信

地域づくり考房 

{ Vol.046 }  
2020 11.15

## 特集 ONE TEAM プロジェクト ～松本市 四賀地区～

茶房「みすゞ屋」／◎いただきます!!／お手紙プロジェクト／information



地域づくり考房『ゆめ』  
キャラクター こう坊

考房『ゆめ』は松本大学の全学生を対象に、学生と地域住民とのふれあいを大切にして取り組む地域連携活動の支援を行っています。

### ごあいさつ

今年度は新型コロナウイルスの影響で地域活動が難しい状況が続いていましたが、「ONE TEAM プロジェクト」を中心に活動を再開することができました。「ONE TEAM プロジェクト」は、地域活動や地域づくりの第一歩として地域を知ることを目的とした考房『ゆめ』での入口となる活動です。今年度から始まり、1～2年生を中心に多くの学生が参加してくれています。

活動を受け入れてくださる地域の皆様への感謝と学生たちの取組みをより広く知っていただきたいという思いを込め、今号よりリニューアルしたゆめ通信をお届けします。



# ワン チーム ONE TEAM プロジェクト



考房「ゆめ」では、毎年多くの学生が地域で様々な活動に取り組んでいます。その中で、将来を展望することのできる力を身につけられるように活動内容の質を向上させていきたいと考え「ONE TEAMプロジェクト」と題し、計画しました。今年度は四賀地区を訪問して、学生が地域の課題を把握することで、地域を知り、地域に参加し、地域とは何かを住民と共に学んでいます。



## ① 岩井堂観音堂

松本市重要文化財に指定されている木造千手観音坐像などが点在しています。



## ② 廣田寺

参道には、江戸末期～明治初期の観音像等106体が整然と並んでいます。



## ③ 四賀化石館

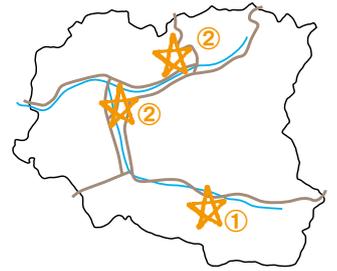
全長5.5mのシガマッコウクジラの化石が圧倒的な迫力で迎えてくれます。化石の採集や化石のレプリカ作りの教室も行われ子どもたちに人気の場所です。





# 8月 地域資源の活用

## 8月-① 梶原農園



**四** 賀地区にターンとして都市部から移り住み、農業や化学肥料を使わずに農業を営む梶原農園へ訪れました。レタスや大根の苗植えを体験し、梶原ご夫妻が農業を始めたきっかけや独自の肥料づくりを工夫していること、地域の方との関係づくりを大切にしていることなどをお話いただきました。ご夫妻は、「素人でも農業を始められるというモデルになりたい」と話し、「野菜の生産者としての立場を維持しつつも、畑と触れる、土と触れる、美しい田園風景を体で感じる、というような体験を

『価値』として提供できないかということを考えることがあります。是非、皆さんのような若い力、若い発想をそのような分野にも生かしていただき、アドバイスをいただけたらと思います」と、学生へメッセージもいただきました。学生からも、「近所の方との付き合いが大切と聞き、私も人との関わりを大切にしていきたい」、「1ターンで四賀に来て、農業を四苦八苦ながらも成功しているのは本当に素晴らしい。地域づくりでも新しいことをやってみるということを大切にしたい」などの感想が寄せられました。

## 8月-② 四賀クライנגルテン

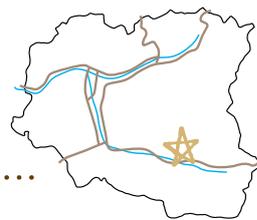


**滞** 在型市民農園「クライנגルテン」を訪れ、四賀むらづくり株式会社社長の金井保志<sup>やすし</sup>さんからお話をお聞きしました。四賀地区のクライングルテンは全国でも先駆けであり、休耕地を利用して都市部との交流を目的に建設されました。有機無農薬栽培による安全な野菜づくりを推進し、緑豊かな景観づくり、そして田舎と都市との交流を実践しています。実際に坊主山と緑ヶ丘のクライングルテンを案内してもらった学生からは、「全国から人々が集まって農業を行うことによって地域資源を生かすだけでなく、地域の活性化につながると感じた」、「自然が感じられる立地で景色が良くて本当にすてきな場所だと思った」などの感想が寄せられました。

9月

## 企業と地域住民による地域づくり

保福寺町大田地区棚田



私は当地で農業を営んでいる70歳、髭のおじさんです。小学校の頃より家の手伝いを当たり前とってしていた記憶があります。当時、農作業は家族全員参加でした。現在はほとんどの作業は機械を使い、ほぼ一人作業です。今回は皆様と一緒させていただき、子どもの頃の作業と亡くな

りましたが祖父母、父母とのことを思い出しました。この体験がこれからの人生に何かしら残ったら嬉しいです。人間の食のこと、これらを取り巻く環境のこと、このことがずっと営まれる平和のことなど。

今回一緒させていただいた若い皆様との農作業、これらを提供くださった関係者の皆様と棚田に感謝します。ありがとうございました。

小林透

農

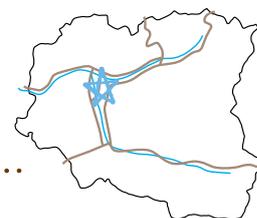
業生産法人株式会社かまくらやと地域住民の方々で再生に取り組まれている棚田での稲刈り・はぜ掛けへ参加し、かまくらや代表取締役社長の田中浩二さんと地域住民代表の佐々木清夫さんからお話を伺いました。学生からは「何を考えて地域に向き合っていけば地域の人と信頼関係を築けるのかということ細かく教えて下さり、非常に有意義な時間を過ごすことができました」といった感想がありました。

また、今回稲刈りのご指導をいただいた四賀地区殿野入の小林透さんより、メッセージをいただきました。

7月

## 地域医療とは

松本市四賀の里クリニック



の頃はまだ学生が直接訪問することが難しかったため、松本市四賀の里クリニック院長として地域医療に携わる家田正寿先生にご協力いただき、動画撮影をさせていただきました。

動画を見た学生からは、「少子高齢化が進む中、地域で高齢者を支えることは大切なので、地域医療の現場で働いている方の話はとても参考になった」、「福祉に限らず地域をより良くするためには地域の支えが大切だと学び、これからの大学生活で地域のために何ができるのか考えたい」といった感想が寄せられました。



# 茶房「みすゞ屋」

文通から広がる活動



新村地区の方々と学生との集いの場所をめざして昨年度から運営が始まった茶房「みすゞ屋」は、今年度は新型コロナウイルスの影響でやむをえず運営を休止しています。茶房の運営はできなくても地域の方々とプロジェクトメンバーのコミュニケーションは続けたい。そんな思いで茶房の地域スタッフの日詰さんと検討を重ね、5月から茶房に集うことのできない地域の方々の文通による交流が始まりました。

「みすゞ屋」に集う方々にはお年寄りや年配の方々も多く、外出自粛や3密を避ける暮らしの中での手紙の交流は、「若い人たちから手紙をもらって元気が出る、嬉しい」など、多くのあたた

かい声をいただきました。また「戦争の時代に比べれば衣食住にも困らないから元気を出して」など、戦争を体験した年配の方々からメンバーにエールの手紙をいただき大きな力になりました。

文通が繰り返されるうちに、メンバーの中から「もっと新村のことを知りたい」との声が湧き上がりました。そこで、9月からは新たな活動として地域の方々とメンバーによる新村フィールドワークが始まりました。今は「若者の視点で見た新村の魅力を地図にしてみてもどうだろうか」という地域の方々の要望も出てきています。ウィズコロナの時代に茶房「みすゞ屋」の活動をさらに魅力的なものに広げていきたいと思えます。



# ◎いただきます!!

## 食を通して地域と繋がるプロジェクト



学生プロジェクト◎いただきます!!のメンバーは、毎年新村児童センターの子どもたちと料理実習などで交流会を開いていましたが、新型コロナウイルスの影響で今年度はできませんでした。そこで、家にいる時間が多い中自宅で子どもたちに料理を楽しんでもらえばと、レシピを考案して寄贈することにしました。子どもたちは「家に帰ってお母さんと作ってみたい」と嬉しそうにレシピを受け取ってくれました。



また、毎年新村地区の「くれき野菜クラブ」の皆さんと交流をしながら食の大切さや収穫の喜びを味わっています。今年度も、もち米の収穫とはげ掛けのお手伝いをしました。炎天下の中、メンバーたちは絶え間なく流れる汗を拭いながら作業を行い、小学生以来の稲刈りに収穫の苦労や喜びを実感できたと大喜びでした。また「くれき野菜クラブ」の皆さんから、「収穫したもち米で子どもたちのために何か美味しいものを作ってやってほしい」というお話を頂きました。



# お手紙プロジェクト



年度当初、学生が地域に出て活動することが厳しい状況がありました。そのような中でも、地域の皆さんと築いた関係を継続できる方法を考え、普段お世話になっている方々と手紙のやりとりをする「お手紙プロジェクト」を実施しました。学生が地域の方を思い浮かべながら書いた手紙を模造紙にまとめて施設へ贈ったり、個人のお宅へ届けたりしました。中には、手紙を受け取った方からお返事をいただくこともありました。直筆のあたたかさが地域の方々にも伝わり、また学生にとっても地域の方との繋がりを感じられる活動になりました。

各学生プロジェクトの手紙送付先は以下のとおりです。

- ええじゃん栄村 → 栄村小滝地区 樋口様
- ◎いただきます!! → 新村児童センター
- 「ゆめ」編集 → 茶房「みずゞ屋」日詰様、小林様
- すすき川花火大会プロジェクト → なみカフェ
- 松本大学サンタ・プロジェクト・まつもと → 信濃学園、松本児童園
- 茶房「みずゞ屋」 → 茶房「みずゞ屋」常連の方々
- あるぶすタウン → あるぶすタウン参加者
- キッズホッケー → 新村児童センター、和田児童センター



# SNSを始めました

今年度より、各種SNSによる情報発信も新たに行っています。YouTubeでは、考房『ゆめ』の紹介や今号で特集記事となっているONE TEAMプロジェクトの様子などを動画でご覧いただけます。

TwitterやInstagramでは、学生たちの活動をリアルタイムにお届けしています。ゆめ通信やYouTube、ホームページなどで発信している内容に加え、より細やかな情報をお伝えできるように工夫しています。また、学生プロジェクトが独自で更新しているTwitterやInstagramの引用投稿も行っています。

いずれも、マスコットキャラクターこう坊が目印です。各SNSのアカウントをお持ちの方はぜひフォロー・登録してみてください。

## 『#つぶやき』

地域の方からの声かけや学生のふとした感想など、交流の中で出てきた一言をお届けします。今回は9月のONE TEAMプロジェクトでご協力いただいた、かまくらや代表取締役社長の田中浩二さんと地域住民代表の佐々木清夫さんの一言です。

#ONE TEAMプロジェクト #松本市四賀地区



地域って自分のことしか考えないことをやると相手にされないので。でも自分以外のことを何かやろうと愚直になれば助けてくれる。

田中浩二さん



企業人として地域と関わる田中さん。何年も苦勞を重ねながら実感した地域との向き合い方を佐々木さんとの対談の中で学生たちに伝えていただきました。

松大生稲を刈る

お互いに だるまみれの顔 笑い合う  
若人集う 晴れた秋の日



佐々木清夫さん



棚田での稲刈り・はぜ掛け体験で、学生たちと一緒に汗をかいてくださった佐々木さん。日頃から川柳を嗜まれているとのことで、当日の様子が目に浮かぶような一句をお寄せいただきました。

お問い合わせ

### 松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村2095-1 松本大学内7号館2階  
 【TEL】0263-48-7213 【FAX】0263-48-7216  
 【E-mail】community@t.matsu.ac.jp  
 【開館日時】月～金 10:00～18:00



<https://www.matsumoto-u.ac.jp/yume/>